

ぐんまの消防

第44号

令和7年度発行



防災意識の芽生え

表紙写真 桐生市消防本部：施設見学

団長の熱き思い



神流町消防団

団長 大塚 幸英

神流町消防団の活動の根底にあるのは、「自分の町は自分で守る」という強い思いです。災害や火災は、いつ、どこで起きるかわかりません。その時、地域を守るのは私たち自身です。誰かが来てくれるまで待つのではなく、私たちが立ち上がる——その覚悟が消防団の原点です。

しかし、人の命を守るためには、まず自分の命を守ることが欠かせません。なぜなら、私たちが倒れてしまえば、助けを必要とする人を守ることはできないからです。だからこそ、活動のすべてにおいて「安全第一」を徹底しています。装備の確認、仲間との連携、危険を予測する判断力——これらは、勇気と同じくらい重要な力です。私たちは、無謀な挑戦ではなく、冷静な判断と確かな準備で地域を守ります。

一方で、消防団を取り巻く環境は変化しています。人口減少により団員数が減り、高齢化も進んでいます。さらに、団員の多くがサラリーマンとなり、平日日

中に活動できる人が少なくなっているのが現状です。こうした状況に対応するため、私たちは「持続可能な消防団活動」を目指し、負担軽減と活動の合理化に取り組んでいます。

具体的には、ポンプ操法訓練の取りやめや、消防団に関する行事の簡素化を進めています。形式や慣習にとらわれず、本当に必要な活動に集中することで、限られた時間と人員を有効に活かすことができます。また、過去には定年制を廃止し、年齢に関係なく、できることを皆で考え、役割を分担する仕組みへと変え直しました。体力に応じた活動や経験を活かせる場をつくることで、誰もが消防団の一員として誇りを持ち続けられるようになっています。

私は団長として、団員一人ひとりが無理なく、そしてやりがいを感じながら活動できる環境を整えたい。地域の安全を守るという使命は変わりません。これからも、知恵と工夫で課題を乗り越え、神流町の安心を未来へつなげていきます。

令和七年度表彰

長年にわたる消防業務のご功績により叙勲及び表彰された方々をご紹介します。

瑞宝小綬章

元前橋市 中澤 勇一
元前橋市 清水 謙一

瑞宝双光章

元前橋市 松嶋 充夫
元太田市 伏島 浩
元高崎市・安中市消防組合 猿谷 至

元太田市 中島 茂

元伊勢崎市 白石 和之

元伊勢崎市 石井 道広

元桐生市 早川 悦男

元渋川地区広域市町村圏振興整備組合 茂木 積

元高崎市・安中市消防組合 田端 芳明

元富岡甘楽広域市町村圏振興整備組合 高橋 一行

元富岡甘楽広域市町村圏振興整備組合 熊川 美朗

元元々消防団 楠 清己

元前橋市 久保田 眞二

元太田市 森田 光雄

元桐生市 大岩 昭芳

元桐生市 佐藤 信幸

元太田市 石川 和男

元富岡甘楽広域市町村圏振興整備組合 新井 勉

元富岡甘楽広域市町村圏振興整備組合 横山 賢一

元吾妻広域町村圏振興整備組合 梅澤 孝夫

元高崎市・安中市消防組合 小林 直基

元伊勢崎市

石原 久男

元安中市消防団

吉田 功

元高崎市消防団

小林 浩二

元前橋市消防団

山口 忠一朗

元上野村消防団

仲沢 義全

元桐生市消防団

富澤 敬

元前橋市

近藤 正美

元多野藤岡広域市町村圏振興整備組合

杉村 一敏

元安中市消防団

萩原 哲也

元高崎市消防団

中里 明義

元南牧村消防団

佐藤 昌行

元下仁田町消防団

神戸 淳

藍綬褒章

前橋市消防団

堀越 徹也

高崎市消防団

木間 裕治

安中市消防団

寺島 良一

高崎市消防団

井上 利昌

大泉町消防団

久保田 稔郎

大泉町消防団

橋詰 元良

南牧村消防団

田貝 一彦

大泉町消防団

小林 七三

前橋市消防団

柳岡 良宏

元渋川市消防団

清水 要

みどり市消防団

金子 憲司

高崎市消防団

本田 誠

元下仁田町消防団

小井土 義治

みなかみ町消防団

鈴木 克幸

伊勢崎市消防団

浅見 誠

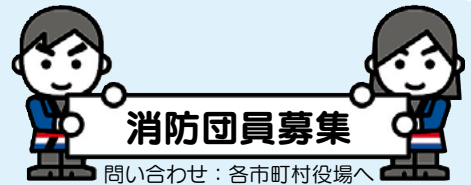
元片品村消防団

今井 一文

元桐生市消防団

吉田 和義

消防団紹介



東吾妻町消防団

東吾妻町は群馬県の北西部に位置し、周囲には榛名山や浅間山など標高一〇〇〇メートル以上の山々が連なっています。その山々は豊かな水をもたらす。環境省の「名水百選」に選定された箱島湧水や名勝吾妻峡など、自然豊かな町です。

我が東吾妻町消防団は、団員数二七八名、六つの分団から構成され、ポンプ自動車一〇台、小型ポンプ付積載車六台、計一六台の消防車両を所有しています。東吾妻町は大きく分けて五地区を六つの分団で管轄し、地域の安全と安心を守っています。

平形幸治団長の指揮の下、「自分たちの地域は自分たちで守る」という強い信念を持ち、日々活動を行っています。

近隣の消防団や吾妻広域消防本部等とは、「顔の見える関係」を築くとともに、交流と絆を深め、有事の際の協力度体制強化に努めています。

近年、当町において行方不明者発生などによる捜索活動が年間数件程度発生していることから、本年六月に当消防団において初めて「要救助者捜索救助訓練」を実施しました。この訓練は、山中での要救助者発生を想定し、実際の捜索救助活動の際に団員が迅速かつ的確な行動をとれるようになることを目的として実施したもので

す。訓練には消防団員のほか、警察職員や消防職員、町防災協定事業者の方々にもご協力をいただき、実施することができました。訓練後は振り返りを行い、捜索救助活動の課題を明確化し、有意義な訓練となりました。

また、当町において少子高齢化等の影響により、今後とも団員の確保が大きな課題となることが見込まれています。そのため、今後は分団の統廃合や訓練体系の見直しなどを行い、消防団員の負担を軽減し、活動しやすい環境づくりを進めていく所存です。

最後に、東吾妻町消防団は今後も町民の安全と安心を守るため、日々精進してまいります。



前橋市消防団

前橋市消防団は一消防団、六方面団、一〇分団、五九部で構成され、条約定数は一三二〇名です。令和七年十月一日現在の実員は一〇六七名で、条約定数に対する充足率は八〇・八%となっています。

年間の主な活動内容としては各種災害対応のほか、あらゆる災害を想定した実践的な定期訓練を重ねるとともに、ポンプ運用訓練や車両操縦訓練、無線運用訓練、新入団員研修など、それぞれの階級に合わせた教養訓練を年間通して計画的に行っています。

また、地域での催しの警戒にも積極的に参加し住民と交流することにより、消防団を身近に感じ、地域防災への備えを理解してもらえるよう地域との連携にも力を入れています。近年では消防団への入団促進はもとより、幅広い世代に消防団を認知してもらうことを目的とした広報活動にも力を入れており、各種イベントへの参加をはじめ、市内の駅やショッピングモール、大学の学園祭などに出向き、パンフレットやグッズの配布を通じて消防団のPRを行っています。今年からは新たな試みとして前橋花火大会での広報活動も実施させていただきました。

近年、広報活動のツールとして欠かすことのできないものが、SNSの訴求力です。本市消防団では数年前から公式インスタグラム

を開設し、活動の様子を発信しており大きな反響をいただいております。是非「前橋市消防団」と検索していただき、公式Instagramをご覧くださいけると幸いです。

近年、自然災害が激甚化、頻発化する中、地域住民を守る我々消防団の役割は一層高まっております。しかし、人口減少や少子高齢化、雇用形態の変化などが重なり、消防団を取り巻く環境は大きく変わり、団員一人ひとりにかかる負担は大きくなる一方です。本市消防団においても消防団員の減少や、高齢化などの課題を抱えており、消防団活動のさらなる活性化に努めていかなければなりません。

地域防災の要である消防団活動を維持していくためには、消防団運営の見直しに取り組み、団員の負担軽減を図り、魅力ある消防団となるような体制づくりが必要不可欠だと感じています。諸先輩方が築き上げた消防団ならではの伝統を継承しつつ、時代の変化に応じた消防団運営を心掛け、先進的かつ積極的な取組に注力していければと考えています。今後においても団員が一丸となって地域住民の信頼と期待に応えるべく、質の高い消防団を目指して精進してまいります。



『火災調査部会の活動』 『群馬県消防長会』

火災調査部会の活動目的は、群馬県内の消防本部の火災調査能力向上、情報共有及び協力体制の構築にあります。定期会議で情報共有を図り、県内の消防本部を対象に実技研修会、特別講演会、実務研修会を行っております。

今年度は電気機器に関する実技研修会、県外の消防局から講師を招いての火災事例特別講演会を行いました。2月には、県内の消防本部による火災事例発表（実務研修会）の開催を予定しております。これらの研修を通して火災調査能力の向上を図り、火災の起火原因の判明率が上がることで、火災の減少に繋がります。

本部会活動を通して、今後も火災予防に尽力してまいります。



『消防救助技術指導会』 『群馬県消防長会』

6月5日（木）、群馬県消防学校及びしんしん大渡温水プールにおいて、『第49回群馬県消防救助技術指導会』が開催されました。この指導会は、救助技術に必要な基本的要素を錬磨する事を通じて、救助活動に不可欠な体力、精神力及び技術を養うとともに、群馬県内の消防職員が一堂に会し、成果を発表することにより、救助技術の更なる向上及び連帯意識の高揚を図ることを目的に開催しております。

声援と拍手が鳴り響き、高まる緊張感の中で、各本部を代表する隊員たちは、培った訓練成果を遺憾なく発揮し、盛況

『熱中症予防及び救急車適正利用に関する街頭広報の実施』高崎市等広域消防局

夏季は救急出動件数が増加傾向にあり、とりわけ熱中症による救急搬送人員は、全国的に年々増加しています。これは、当消防局管内においても同様であり、この課題に対して具体的対策を講じることが急務となっています（当消防局の熱中症救急搬送人員は、今年過去最多を更新）。

このことから、当消防局では多くの人でにぎわう高崎駅西口周辺において、高崎中央消防署員を中心に、熱中症予防及び救急車適正利用の広報活動を実施して

のうちに指導会を終えることが出来ました。

なお、上位大会の『第53回消防救助技術関東地区指導会』及び『第53回全国消防救助技術大会』に出場した消防本部の結果は次のとおりです。



	訓練種目	代表消防本部	上位大会出場結果
陸上の部	はしご登はん	利根沼田広域消防本部	全国消防救助技術大会 入賞
	ローブリッジ渡過	高崎市等広域消防局	全国消防救助技術大会 入賞
	ロープ応用登はん	高崎市等広域消防局	全国消防救助技術大会 入賞
	ほふく救出	桐生市消防本部	全国消防救助技術大会 出場
	ローブリッジ救出	利根沼田広域消防本部	関東地区指導会 入賞
		渋川広域消防本部	関東地区指導会 出場
水上の部	引揚救助	利根沼田広域消防本部	関東地区指導会 出場
	障害突破	前橋市消防局	関東地区指導会 出場
	人命救助	前橋市消防局	全国消防救助技術大会 出場
	複合検索	高崎市等広域消防局	関東地区指導会 入賞
		渋川広域消防本部	関東地区指導会 入賞
	基本泳法	桐生市消防本部	関東地区指導会 入賞
		館林地区消防組合消防本部	関東地区指導会 出場
	溺者搬送	高崎市等広域消防局	関東地区指導会 出場
	溺者救助	桐生市消防本部	関東地区指導会 入賞
	水中結索	前橋市消防局	関東地区指導会 出場
	水中検索救助	高崎市等広域消防局	関東地区指導会 出場

結び付けることができました。今後も熱中症から市民を守り、救急車の適正利用に理解を求めるため、積極的な広報活動を継続してまいります。



『地域の絆で守る・火のないまちづくり』

伊勢崎市女性防火クラブ 副会長 久保田 明子

このたび、令和七年度より伊勢崎市女性防火クラブの副会長を拝命いたしました。長く続いてきた活動の歴史と、これまでクラブを支えてこられた先輩方の思いを受け継ぎながら、これからの時代にふさわしい新しい取り組みを進めていく責任を感じております。

近年は、地震や豪雨などの自然災害が全国各地で相次いでいます。火災だけでなく、さまざまな災害に備えることの大切さを、私たちは日々痛感しています。また、高齢化や人口減少が進み、地域のつながりが薄れつつある今だからこそ、互いに声をかけ合い、助け合う関係づくりが一層大切になっているのではないのでしょうか。災害は一人の力では防げることができません。地域全体で支え合うことで、初めて「守れる命」があるのだと感じています。

女性防火クラブの活動の基本は、「家庭から火災を出さない」ことです。台所や暖房器具を安全に使うこと、日頃から火の元を確認すること、そして非常時に備えた準備をしておくこと。どれも小さなことのように思えますが、その積み重ねが家庭の安全を守り、地域全体の防災力につながります。また、日常の中で家族や近所と声をかけ合い、互いを気にかけることが、いざという時の大きな力になると信じています。



そしてもう一つ大切なのは、次の世代への継承です。子どもや孫の世代に、火の怖さや備えることの大切さを伝えることは、私たちにできる大切な役割の一つです。クラブの活動を通して、世代を越えて学び合い、支え合える地域づくりを進めていきたいと願っています。

副会長という新たな立場をいただいた今、私は「防火・防災は誰かの仕事ではなく、自分のこと」と感じていただけでなく、自分の活動を目指しています。女性ならではの優しさときめ細やかな気配りを生かしながら、仲間の皆さんと力を合わせて、安心して暮らせる地域づくりに少しでも貢献できれば幸いです。これからどうぞよろしくお願いいたします。

『令和7年度群馬県女性防火クラブ指導者育成研修会について』

群馬県女性防火クラブ連絡協議会事務局

令和七年十一月六日(木)に群馬県公社総合ビルにおいて、一般財団法人日本防火・防災協会との共催により、群馬県女性防火クラブ指導者育成研修会を開催しました。県内各地から、女性防火クラブ員や消防職員など総勢約百六十名が参加し、盛況のうちに終了しました。

第一部では、「渋川市女性防火クラブ」と「嬬恋村婦人消防隊」の二つの地区による活動状況発表をさせていただきました。両地区とも火災予防活動に積極的に取り組んでおり、地域の防火意識の高揚に大きく貢献されている様子がうかがえました。第二部では、法相宗大本山薬師寺副住職・大谷徹英氏による「心の防災×スティーチエンジンと新しい生き方」と題して講演をいただきました。大谷氏は、「一九九九年春から「心を耕そう」をスローガンに全国各地で法話行脚を続けており、現在まで精力的に活動をされています。

講演では、従来の一方的な講義形式ではなく、読み書きを通じて参加者が主体的に関われる内容で、参加者の皆様から大変好評をいただきました。人生は予測できない出来事の連続であり、災害や病気、社会の変化に備えるには、物理的な準備だけでなく、心の準備が不可欠であると語り、そのためには、日々の生活の中で「心の貯金」を積み重ねることが重要であり、それがいざという時に自分や他者を救う力になると述べられました。ユーモアを交えた講演は一時がたあつという間に過ぎ、クラブ員の方からはもう少しお話を聞きたかったと声があがりました。

研修は長時間に及びましたが、参加者の皆様の御協力により、大変有意義な研修会となりました。今後このような機会を大切に、県内女性防火クラブ相互の発展と連携強化につなげてまいりたいと考えております。



事例発表の様子



事例発表の様子



講演の様子

第26回全国女性消防操法大会に出場して

伊勢崎市消防団境方面隊第13分団 団員 福島 祐香
(指揮者担当)

私たち伊勢崎市女性消防隊は、横浜赤レンガ倉庫イベント広場で開催された「第26回全国女性消防操法大会」へ群馬県代表として出場してきました。

全国女性消防操法大会は、女性消防隊の消防技術の向上と士気の高揚を図ることを目的としており、迅速、かつ、安全に消防用機械器具の操作技術を競うものとなります。今回の大会では、全国各地から選抜された44の女性消防隊が集結し熱戦が繰り広げられ、大会3連覇を狙う熊本県チームを千葉県チームが破り初優勝を飾っております。私たちのチームは、入賞することは叶いませんでしたが、大会の雰囲気や隠すことなく、大会本番でベストタイムを出すことができ、メンバー一同、大変満足しております。

伊勢崎市消防団では45個の分団があり675名の団員が在籍しておりますが、その中で女性消防団員は14名と、まだまだ少ない状況です。今回、伊勢崎市が群馬県代表として出場するのは約30年ぶりのことであり、メンバー選定から難航しました。ほとんどが団歴の浅いメンバーで、その内の4人は入団まもない団員です。そもそもポンプ操法を知らないし、見たこともないという状態からのスタートでした。県内予選などもなく、いきなり群馬県代表として全国大会に出場しなければならず、正直なところとても重圧でした。練習はいつから、どこで、何時からどのようにするのか。いったい準備資金はどれくらい必要なのか。誰も何も分からない中ですべてが手探りでした。

今回、消防団長である金井団長の声かけにより、所属の垣根を越えて、団本部執行部、メンバーの所属する各方面隊の隊長、副隊長、団本部以外からも多くの方々に指導担当として協力していただきました。始めはお互いがよく分からない中でどのように練習や指導をしていくのか、どこまでメンバーに言っているのか、指導担当の方々も悩まれたと思いますが、大会日が近づくにつれ、メンバーより指導担当の方々が楽しそうに和気あいあいと活動されている姿がとても印象的でした。

限られた短い期間ではありましたが、メンバー、指導担当、消防職員の方たちが一丸となって創意工夫をしながら良い練習ができたと感じております。また、練習場所や環境面での配慮、調整など消防職員の方々にも様々なところでご支援いただき万全なサポート体制のもと練習を進めることができました。

大会当日は大緊張の中、出場順が5番目ということでも早く、大渋滞に巻き込まれた応援団の方々の到着が間に合わないのではないかとヒヤヒヤしましたが、何とか間に合い練習の成果を皆さまへお見せすることができました。

女性消防隊の青山隊長は、本番前に緊張する私たちのために明るく振る舞って

くれ、私たちの操法が終わると1人大泣きしていました。女性消防隊の隊長という立場はとても大変だったと思います。本当にお疲れ様でした。

今回の大会を通じ多くの方々から長きにわたり惜しみない協力と支援、ご声援をいただき本当にありがとうございました。また、メンバーとご家族皆さまの協力のおかげで大会へ出場することができたこと、心より感謝いたします。

メンバーは普段別々の分団に所属しておりますが、今回の大会を通じて仲良くなり、再び青春を謳歌することができたと嬉しかったです。皆さま、本当にありがとうございました。そして本当にお疲れ様でした。

第26回 全国女性消防操法大会



急な病気やケガで救急車を呼ぶか迷ったときは 「群馬県救急安心センター相談ダイヤル#7119」

「家族の様子がなんとなくおかしいけど、救急車呼んだ方がよいのかな…」「具合が悪いけど病院に行った方がいいのかな…」こんなとき、あなたはどうしますか？

群馬県では、常駐の看護師からアドバイスを受けることができる電話相談窓口、「群馬県救急安心センター事業」(#7119)(以下「#7119」という。)を令和7年10月1日から開始いたしました。



#7119

- ・相談時間：24時間365日
- ・対応言語：8言語(ポルトガル語、スペイン語、フィリピン語、英語、ベトナム語、中国語、インドネシア語、韓国語)
- ・相談料：無料(通話料は利用者負担)
- ・電話番号：#7119(携帯電話から利用できます)

#7119に寄せられた相談は、常駐の看護師が電話口で傷病者の状況を聞き取り、「緊急性のある症状なのか」「すぐに病院を受診する必要があるか」等を判断します。相談内容から緊急性が高いと判断された場合は、119番通報を促し、緊急性が高くないと判断された場合は受診可能な医療機関や受診のタイミングについてアドバイスを行います。

#7119があれば安心!



また、「体調が悪いけど、どこの病院に行ったらいいか」といった相談に対しても、受診可能な医療機関を紹介します。この#7119が導入された目的は大きく3つあります。

①「安心を提供する」

自身や家族が急な病気やケガをしたとき、とても不安な気持ちになります。そんなとき、#7119では常駐の看護師に相談することができ、アドバイスをとおして、皆さんの判断の手助けとなります。
#7119は、心細く不安を抱えている方々に安心を提供します。



②「救急車をいち早く傷病者の元に」

救急車の出動件数は増加傾向にあり、高齢化の進展により2040年にはピークに達すると見込まれています。救急車の出動件数が増えることで、救急車が現場に到着するまでに要する時間も伸びてきており、一刻を争う事態が発生したとき、救急隊の到着が遅れてしまうおそれがあります。#7119を使っていただくことで、緊急性が高いときには救急車の要請を、そうでないときは症状等に応じたタイミングで医療機関を受診すること



を支援します。こうすることで、緊急性の高い傷病者の元にいち早く救急隊が駆けつけられることができるようになります。
#7119は、地域の限られた医療資源の一つである救急車を有効に活用する一翼を担います。

③「隠れている重症者を発見するために」

一方で、様々な理由で救急要請がためられない場面も存在します。
例えば、「なんとなく様子がおかしいけど、こんな症状で救急車を呼んでいいのだろうか…」「救急車なんか呼んだら近所の噂になってしまう…」「夜中にサイレンを鳴らして救急車がきたら近所迷惑になりそう…」といった場面です。

しかし、もしかすると、その症状は一刻を争うサインかもしれません。#7119を使っていただくことで、常駐の看護師が症状を聞き取り、一刻を争う場面かどうかを判断することができます。



隠れた重症者を発見し、手遅れにならないように一刻も早く救急搬送につなげることも、#7119の重要な役割なのです。
なお、ダイヤル回線やIP電話からは#7119に繋がらない場合があります。

また、県境からの架電の場合、隣県の場合は、#7119に繋がる場合があります。その場合は、直通電話番号に架電していただきますと、#7119の相談員に繋がります。

・050-5526-4381(接続先は

#7119と同じです。)

群馬県では、#7119の他にも、夜間や休日におけるお子さんの病気への対処方法や、応急処置などを電話で相談できる「子ども医療電話相談(#8000)」を実施しています。

・相談時間

・月曜日から土曜日：午後6時から翌朝午前8時
・日曜日、祝日、年末年始：午前8時～翌朝午前8時



#8000

また、群馬県内の消防(局)本部では、救急車を利用しなくても、自宅の車等で病院に行ける場合に、診療可能な病院を24時間案内しています。



消防サービス

消防(局)本部に設置されている専用パソコンで、そのときに診療が可能な病院や医療を調べて案内しているもので、医療相談や病気の診断・治療を目的とするものではありません。

受診を希望する病院へは、ご自身で連絡し診療が受けられることを確認してから受診をしていただくものです。

群馬県及び各消防(局)本部では、各種サービスを実施しております。

救急出動件数がピークに達する2040年を迎える前に、状況に応じて各種サービスをご活用いただき、救急車の適正利用にご協力をお願いいたします。



※ダイヤル回線・IP電話の場合は「050-5526-4381」へ

群馬県殉職消防職団員 慰霊祭を挙行

令和七年十月三十一日(金)群馬県消防学校の慰霊碑において、群馬県殉職消防職団員慰霊祭が、ご遺族・消防協会役員・消防関係者など六十名のご参加を頂き厳粛に執り行われました。

群馬県消防協会会長である山本知事により、式辞が述べられその後、参列者の皆様による献花が行われ、殉職者の御霊に対して敬意を表するとともに、安全・安心への誓いを新たにいたしました。



群馬県団長研修会 開催

令和七年十一月二十日(木)伊香保温泉水テル木暮にて、団長三十四名の出席により団長研修会を開催いたしました。

研修会は、富岡甘楽支部・下仁田町消防団団長黒澤雅史様及び吾妻支部・高山村消防団団長後藤英樹様より「団員確保

に係る取り組み及び災害活動等」の報告をいただき、その後群馬県消防保安課職員が撮影編集した消防団PR動画を四本上映しました。休憩をはさみ、令和七年二月に発生した「岩手県大船渡市林野火災」について、緊急消防援助隊として現地に派遣された前橋市消防局消防司令長 酒井聡氏により、活動内容のご講演をいただきました。



令和七年度 表彰

県消防協会定例表彰

「表彰者総数 三二五〇名」

☆功労章

一五三名(三五名)

☆永年勤続功労章

三三八名(二六名)

☆精積章

四四〇名

☆精勤章

五年勤続

四〇六名

一〇年勤続

四四一名

一五年勤続

三五六名

二〇年勤続

三三九名(二五名)

二五年勤続

一六一名(七名)

三〇年勤続

二六名(三三名)

三五年勤続

五七名(二一名)

四〇年勤続

一七名(二名)

四五年勤続

一名

五〇年勤続

二名

☆永年勤続退職者表彰

三一九名(二五名)

☆三世代伝承等優良消防団員顕彰

四名
()内は消防職員数で内数

2025年度全国統一防火標語

「急ぐ日も 足止め火を止め 準備よし」

県内の消防の現況

(令和7年10月1日現在)

消防団員数	10,519人	(前年比 193人減)
男性	10,285人	(前年比 205人減)
女性	234人	(前年比 12人増)
消防職員数	2,580人	(前年比 5人減)

発行所	公益財団法人 群馬県消防協会 前橋市大手町一丁目1番1号 群馬県総務部消防保安課内 TEL 027-220-1338 URL http://www.gunma-syoubou.jp/
編集発行人	公益財団法人 群馬県消防協会 常任理事 高橋 剛 生
印刷所	朝日印刷工業株式会社